

## 園内の自然を活用したプログラムと今後の課題

○鈴木義明

(横浜市立よこはま動物園)

横浜市では「水と緑の基本計画」を制定する等、市内の河川水域や緑地を保全していく政策や、それに関連する事業を進めている。その中で動物園は公園や市民の森等の保全緑地の周辺に立地している。動物園内にも多くの自然が残されており、生物の保全や教育活動を行うのに適した条件が整っている。これまでよこはま動物園で行った園内の自然を活用したプログラムをまとめ、今後の活動への課題提供をする。

園内各班が担当月に持ち回りで毎週日曜日に行っている「どうぶつ教室」の1コマとして、2016年より毎年8月に「昆虫教室」を開催した。実施時間は30分で、昆虫について説明したのち、園内を回り昆虫観察を行った。新型コロナウイルス感染症拡大防止によるイベント自粛等の影響により、2020年は中止、2021年は1回のみ開催となったため、代替え措置としてブログで昆虫教室を行った。それ以降、不定期にブログで昆虫などを紹介していたが、新たに昆虫などの園内の自然を紹介する「ズーラシア春夏秋冬」ブログを2021年2月に立ち上げた。さらに、2022年度から生物保全プロジェクトを業務として立ち上げ、園内の生物調査や企画展を開催した。

自然を知り、興味をもってもらうことを目的としたプログラムは、参加者の関心も高く、自然環境保全にもつながる入門編としても意義があり、座学だけの企画より、観察会を加えた企画の方が参加者の反応がよく感じられた。

希少種も含めた様々な生物が生息しているため、動物園は生物保全の場として重要である。加えて、動物園内は農薬をほとんど使用していない閉鎖空間であり、環境保全を行う上でメリットが大きい。また、動物園の役割として、地域の継続的な生物調査及び保全活動も求められていると同時に、教育普及活動も行いやすい。

今後、調査方法の確立、保全種の選定や評価方法、それをもとにした教育啓発活動を考えていきたい。